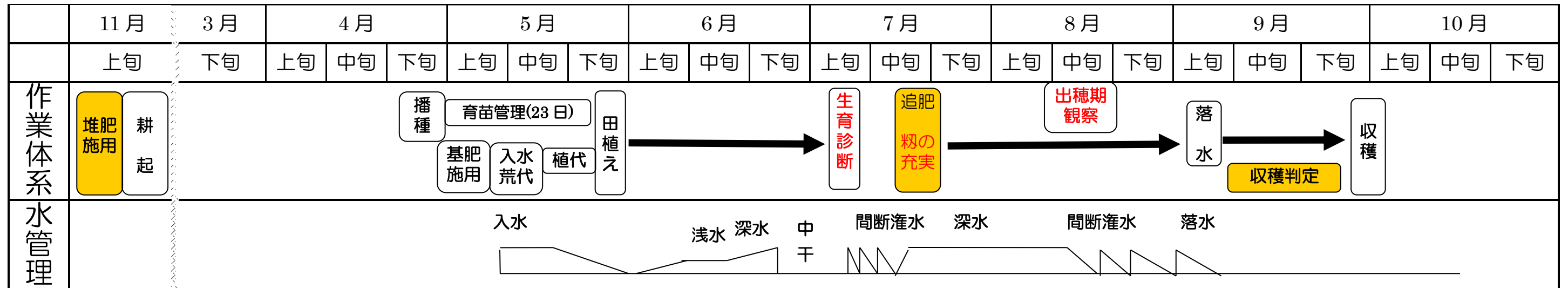


水稻「風さやか」 高品質良食味向け栽培指針(平成 30 年版)

北信農業改良普及センター・JAながのみゆき支所



「風さやか」の特徴：長野県農業試験場育成。
 中生の晩でコシヒカリより出穂が4日、成熟期で7日程度遅く、倒伏・いもち病に強く、多収。過度な籾数増加をもたらす施肥は登熟歩合の低下や白未熟粒の増加及び食味の低下につながるのを避ける。

～品質向上を目指して～早期穂数確保・籾数制限

- 基肥施用**
 多肥栽培では、未熟粒が増加するので避ける。
 みゆきライス：50～60kg/10a (N 5.0kg～6.0kg/10a 程度)
 ※堆肥は前年の秋に施用、耕起する。(上限 500 kg/10a)
 ※その他の有機物を施用する場合は普及センター・JAへ相談する。
- 播種・育苗管理**
 ・一般の品種と同様に行う。(移植遅れないように：苗を老化させない)
 ・播種量は 140g/箱以下にしない。
- 田植え**
 ・時期：5月中～下旬
 遅い移植は避ける。※分けつ不良・未熟粒増加
 ・栽植密度は、60 株/坪植え、4本植え程度とする。
 疎植(50 株未満)は避ける。
- 病虫害防除**
 (1) 苗箱施薬：殺菌殺虫剤を必ず処理する
 (2) いもち病には強いが上位葉への病斑が認められるときは、
 ビームソル 1000 倍(100 ℓ/10a)を散布する。
 ※多発の恐れがある場合は、薬剤による予防に努めること。
 (3) カメムシ防除：慣行どおりに防除を行うこと。

- 水管理**
 ・移植後生育が停滞するときは 2～3 日程度田面を出す。
 ・幼穂形成期以降、低温時は深水管理を行う。
- 中干し**
 遅い茎発生し易く品質低下につながるのを、6 月末ごろ又は茎数が 22～23 本程度になったら、10日程度を目安に行う。
- 追肥**
 ・7 月上中旬に生育状況を観察し、施肥時期と量を検討する。
 ※コシヒカリよりも葉色が淡いので多肥に注意する
 ・基本施肥量と時期
 穂肥：NKC201 5～10kg/10a (N 1.0kg～2.0kg/10a 程度)
 出穂期 25～18日前 (幼穂形成期 0.2cm～幼穂長 0.5cm)
- 収穫適期の判定**
 ・積算気温 1,100℃以上とする。
 ・帯緑色籾歩合 10～5%で収穫する。
 籾数が多い圃場は未熟粒が多いので穂軸の黄変を参考に刈り取る。

【目標生育モデル】

$$\begin{aligned}
 & \left[\begin{array}{l} 60 \text{ 株/坪植え} \\ \text{(株間約 18 cm)} \end{array} \right] \times \left[\begin{array}{l} 1 \text{ 株穂数} \\ 24 \text{ 本程度} \end{array} \right] \Rightarrow \left[\begin{array}{l} 1 \text{ m}^2 \text{ 穂数} \\ 430 \text{ 本} \end{array} \right] \times \left[\begin{array}{l} 1 \text{ 穂籾数} \\ 80 \text{ 粒} \end{array} \right] \\
 & \Rightarrow \left[\begin{array}{l} \text{目標 } 1 \text{ m}^2 \text{ 粒数} \\ \text{約 } 34,000 \text{ 粒} \end{array} \right] \times \left[\begin{array}{l} \text{登熟} \\ \text{歩合 } 80\% \end{array} \right] \times \left[\begin{array}{l} \text{千粒重} \\ 23.2\text{g} \end{array} \right] \Rightarrow \left[\begin{array}{l} \text{目標単収} \\ 630\text{kg}/10\text{a} \end{array} \right]
 \end{aligned}$$